

大阪湾漁場環境速報

平成30年2月2日発行
兵庫のり研究所

神戸地先から湾奥部周辺海域にかけて、スケルトネマが優占種として大量発生しています。その海域では、陸水等の影響もあり表層の窒素は高い値を示していますが、リンは大きく減少しています。それ以外の海域では、窒素は概ね3~4 $\mu\text{g-at/L}$ 台でした。

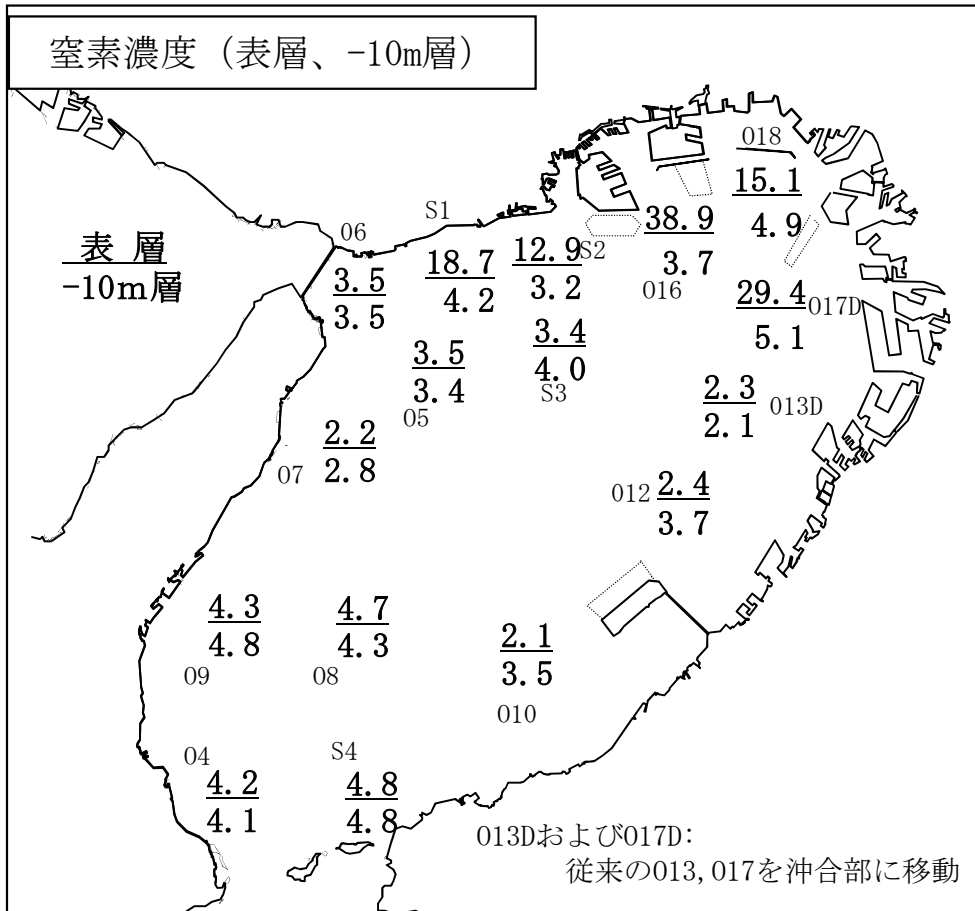
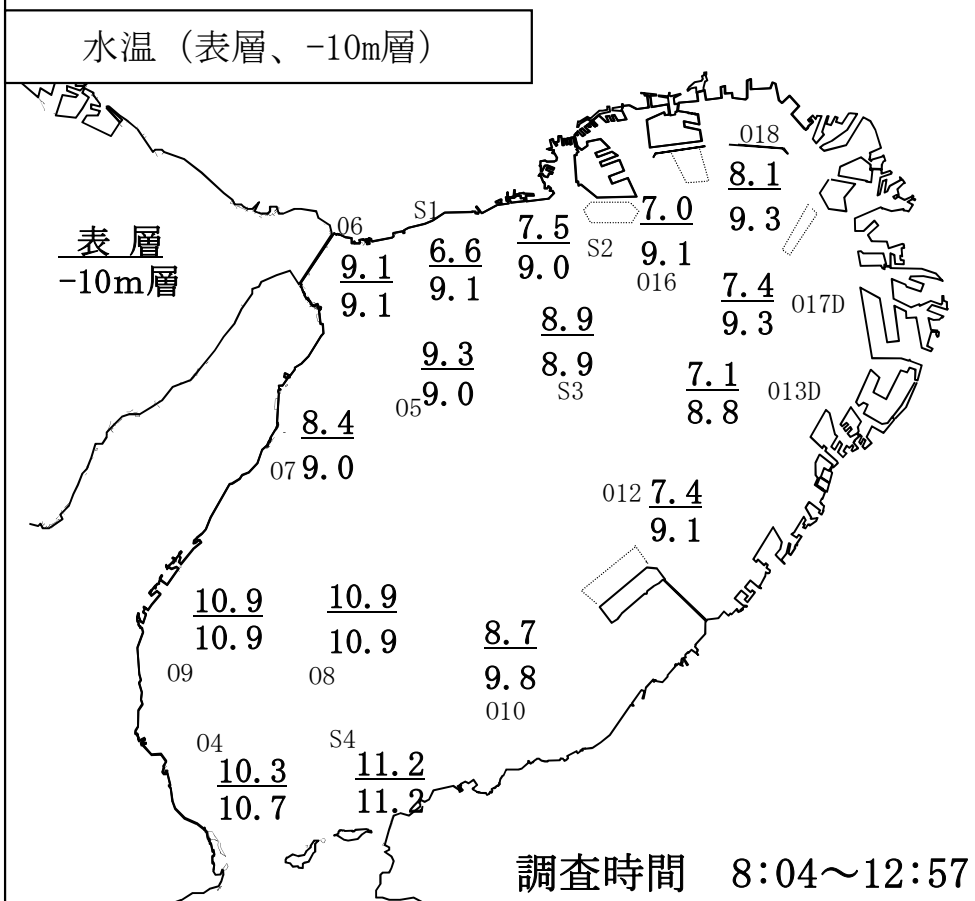
(水温) 表層は一部を除き湾内7~11°C台で、平均8.9°C(平年比-0.6°C)。-10m層は平均9.7°C(ほぼ平年並)。

(塩分) 表層平均30.87psu(平年 31.44)。-10m層平均32.14psu(平年 32.14)。

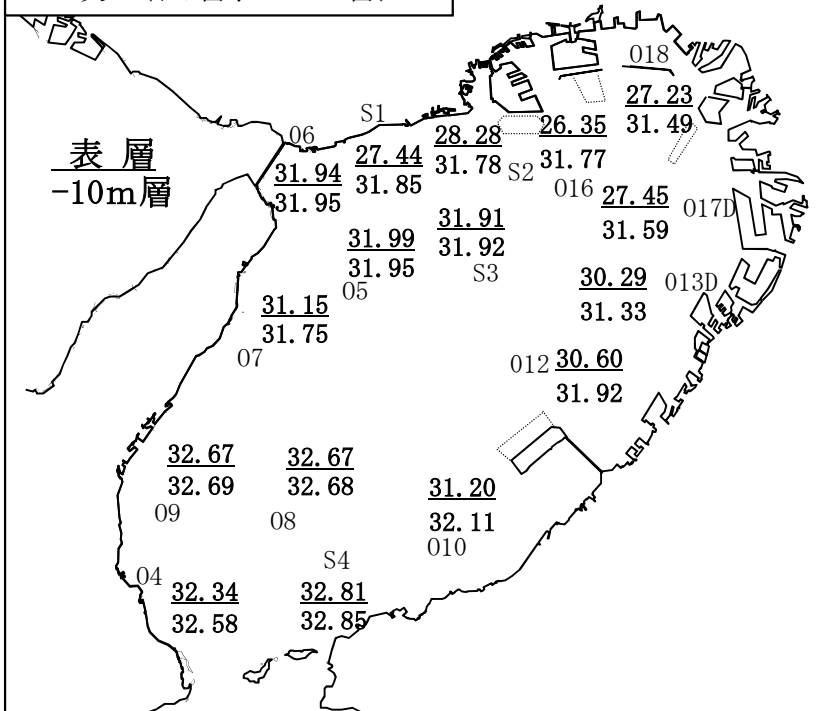
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均8.1 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均0.30 $\mu\text{g-at/L}$ 。-10m層(平均)は、窒素3.8 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.38 $\mu\text{g-at/L}$ 。-10m層は窒素・リンともにほぼ平年並の値であった。神戸地先から湾奥、大阪南港周辺にかけては陸水等(水温・塩分が低い)の影響により、表層の窒素は高い値であったが、スケルトネマによる赤潮が見られており、リンの値が低い状況。それ以外の海域においては、全般に窒素は3~4 $\mu\text{g-at/L}$ 台でリンも十分量となっている。

上段(今回値)	平成30年2月2日調査
中段(昨年値)	平成29年2月3日調査
下段(平年値)	2月上旬

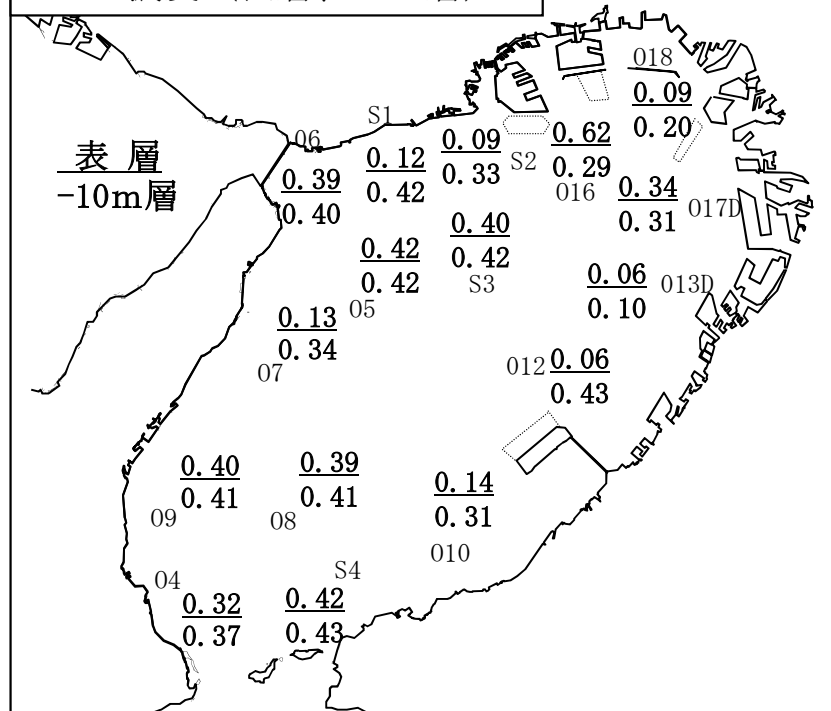
調査地点	水温(°C)	塩分(psu)	三態窒素($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸($\mu\text{g-at/L}$)
04	10.3	32.34	4.2	0.32
	11.9	32.62	3.9	0.32
	10.7	32.58	4.2	0.38
05	9.3	31.99	3.5	0.42
	10.6	31.77	2.3	0.32
	9.6	31.88	3.5	0.32
06	9.1	31.94	3.5	0.39
	10.6	31.80	3.1	0.35
	9.3	31.44	4.9	0.30
07	8.4	31.15	2.2	0.13
	10.8	31.83	2.6	0.31
	9.6	31.96	3.1	0.32
08	10.9	32.67	4.7	0.39
	10.7	31.86	1.9	0.25
	10.0	32.11	2.8	0.30
09	10.9	32.67	4.3	0.40
	10.6	31.84	2.1	0.28
	10.1	32.15	3.2	0.33
010	8.7	31.20	2.1	0.14
	10.2	31.39	0.9	0.06
	9.3	31.49	3.6	0.21
012	7.4	30.60	2.4	0.06
	10.0	31.12	0.9	0.07
	9.0	30.76	7.1	0.26
013D	7.1	30.29	2.3	0.06
	9.9	30.90	0.8	0.06
	8.9	29.74	12.1	0.30
016	7.0	26.35	38.9	0.62
	10.4	31.45	1.8	0.17
	8.9	29.33	13.8	0.27
017D	7.4	27.45	29.4	0.34
	9.8	29.32	1.7	0.07
	9.1	29.09	18.5	0.38
018	8.1	27.23	15.1	0.09
	10.0	28.09	28.3	0.33
	8.9	27.67	27.6	0.54
S1	6.6	27.44	18.7	0.12
	10.6	31.80	2.7	0.32
	9.0	31.00	7.6	0.28
S2	7.5	28.28	12.9	0.09
	10.4	31.67	4.1	0.31
	9.0	30.31	9.4	0.25
S3	8.9	31.91	3.4	0.40
	10.7	31.82	2.4	0.32
	9.3	31.36	4.9	0.25
S4	11.2	32.81	4.8	0.42
	10.9	32.04	0.9	0.14
	10.4	32.35	3.3	0.31



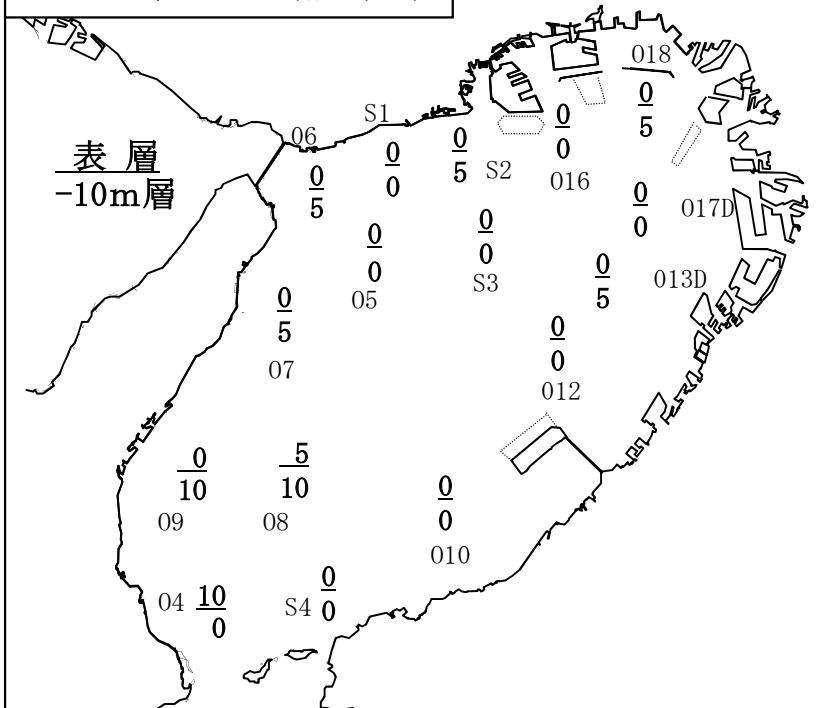
塩分 (表層、-10m層)



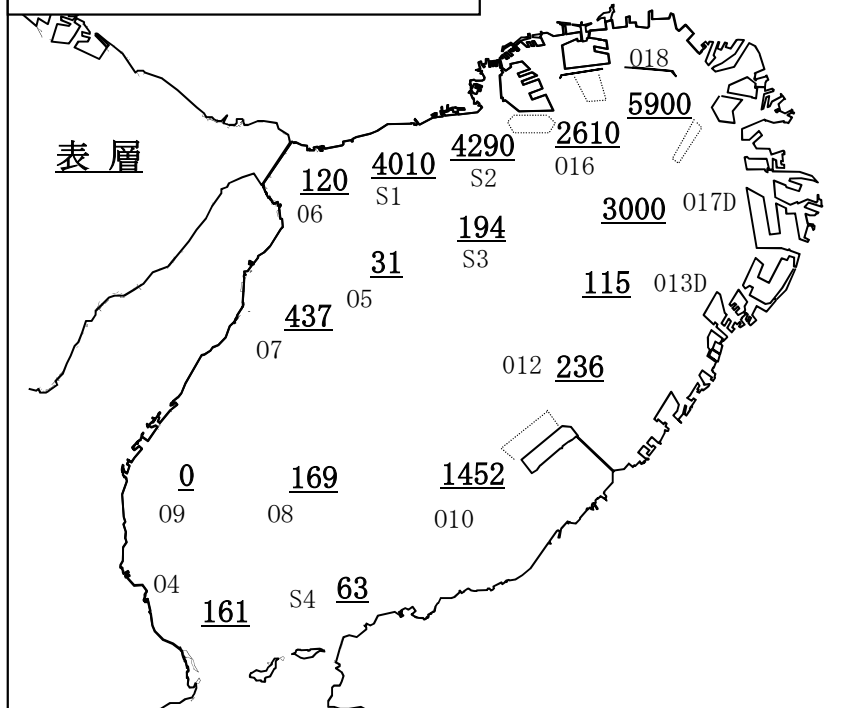
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/mL)

